
青山 アパート 即興曲

長月 夕子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青山 アパート 即興曲

【Zコード】

Z0784A

【作者名】

長月 タ子

【あらすじ】

濡れる全では、幻だらうか。その月も、その肌も、その瞳も。

古い時代の瀟洒なアパートメントが取り壊されようとしていた。建造物的美観より建造物的安全性が優先されるのは、宿命である。細かい雨が、僕のヘルメットを伝い、鼻の頭に滴となって落ちた。作業着は先より一段階濃い色に変色しつつある。

すべてがねずみ色に沈んでいる。アパートメントに降り注いでいるものは、はたして雨だけだろうか。目を閉じると雨の音がヘルメットの下で拡張され、そのうちにそれを音だと捉えているのが難しくなっていく。

満ちた月の光がコンクリートの階段に、深い陰影をつくる。

階段を上る靴音が、かつかつと大げさなほど建物全体に響く。女の幻がそこにいる。僕は立ち止まる。女は動きのない目でじっと僕を見る。あるいは見ていない。

凍りついてしまいそうな青白い肌に触れてみようとする。

僕の手が女の体に、濃い影を落とす。

その肌は人間の体温を帯びていて、僕を少し驚かす。

滑らかな体を月の光がすべり、女と僕とコンクリートの階段の判別を、危うくさせる。

女の曲線に応じて、青い影が素肌の上で幾何学に踊る。僕はその影の跡をたどるように、慎重に何度も同じ場所に触れる。女は思いがけない熱い温度で、僕を受け入れる。そして海の底の田の無い魚のよみに、深く暗く静かな吐息を零す。

月光の隙間に、僕が内側から壊れしていく音が聞こえてくる。その音はうねりとなつて、僕の脳を侵食していく。反響が反響し、増幅されていく音。音が僕を壊しているのかもしれない。触れ合っているところから急速に熱が奪わっていく。女を見る。その目は月の光でいっぱいである。僕は耳を押さえる。そんなことしても無駄な

のだ。音は僕の中で僕を反芻しているのだから。

僕は目を開く。瓦礫の山が広がっている。パワーショベルが絶え間なく壁を碎いていた。コンクリートが崩れ落ちる。そこにはもう月光も無く階段も無く、女もない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0784a/>

青山 アパート 即興曲

2010年10月17日04時30分発行